

令和7年度教育推進指定校における研究公開のまとめについて

学校名	開催期日	指 定	研究主題		短評	研究教科等	講演等	参加人数			
								市内	市外	県外	総計
板城西 小学校	10月28日 (火)	令和6・7年度 東広島市 教育推進指定校	みんなでTR Y!児童が主役の授業づくり ～互いに学び合う「対話」を中心とした国語科の学びを通して～	成果	「教える授業」から「子供たちが主体的に学び合う授業」への転換に挑戦した。見守りの立場に立ちながらも、深い学びを促すために、効果的な対話場面を組み込み、児童の思考の流れを踏まえた切り返し発問などの工夫を重ねたことで、主体的に対話を深める児童の姿へとつながっている。また、一人一人の児童を丁寧に観察し、情報を教職員で分析・共有することにより、深い児童理解を実現し、多面的な視点から児童の可能性を最大限に引き出す支援につなげることができた。	国語科 特別支援教育	<講演> 生駒市教育委員会事務局 教育部教育指導課教育政策室 主幹 若松 俊介	223	2	0	225
				今後に 向けて	小規模校の強みを生かしながら、多様な他者や価値観に触れる機会を広げることが求められる。地域と協働した探究的な学びを充実させるとともに、オンラインを活用した他地域との交流や情報発信に挑戦し、社会に開かれた学びの推進を期待する。						
風早 小学校	10月31日 (金)	令和6・7年度 東広島市 教育推進指定校	自己調整力を発揮し、主体的に学ぶ児童の育成 ～個別最適な学びの視点に立った授業づくりを通して～	成果	新たな学びの在り方として、単元内自由進度学習に挑戦した。教材や教具の工夫、学習環境の整備により、児童が自分に合った課題・学習方法・進度を選び、自ら決定できる仕組みを構築した。また、学習後の振り返り活動を重視し、指導者が児童一人一人に丁寧なフィードバックを重ねることで、児童の自己調整力や学びの意欲を高めることができていた。この取組により、指導者は振り返りの情報を基に個別支援や授業改善を行うサイクルを構築し、授業の質の向上につなげていた。	国語科 算数科 特別支援教育	<講演> (株)エディオンIR広報部 木村 文子	183	5	0	188
				今後に 向けて	これまでの多様な実践を大切にしながらカリキュラム全体を俯瞰し、小学校6年間を見通した単元配列やバランス等を整理することが求められる。コミュニケーション・スクールとして、系統的な学びの構築をさらに進め、より効果的なカリキュラムへの発展を期待する。						
西条 中学校	11月12日 (水)	令和6・7年度 東広島市 教育推進指定校	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の工夫 ～「選択」と「共有」の場面を取り入れた単元づくりを通して～	成果	生徒の主体的・対話的で深い学びを促進するために、「選択」「共有」「振り返り」を重視した授業づくりを実践した。生徒が課題や学習方法を自ら選び、対話を通じて考えを再構築し、ポートフォリオ等を活用した振り返るサイクルにより、自立した学び手としての姿勢が広がっている。また、校内研修を通じて、教職年数や教科を越えた協働的な議論を継続し、授業の意図や支援方法を共有することで、教育力の向上と生徒の深い学びを支える基盤を築くことができた。	各教科	<講演> 大妻女子大学 教授 澤井 隆介	145	4	1	150
				今後に 向けて	研究成果を、総合的な学習の時間や学校行事等、実社会とのつながりが強い学習活動へ広げていくことが求められる。他者との協働の中で自分らしさを磨くとともに、生涯にわたって学び続ける力と、民主的で持続可能な社会を創る力の育成を期待する。						
志和 小・中学校	11月19日 (水)	令和6・7年度 東広島市 教育推進指定校	推論する力を発揮し、地域貢献しようとする児童生徒の育成 ～e STEAM教育の実践を通して～	成果	義務教育9年間で育てたい資質・能力の明確化を図り、授業改善を進めた。核となる資質・能力として「推論する力」を位置付け、6つの推論スタイルや3つのステップ、マスターーブリックを作成し、質的な成長を見取る仕組みを整えた。また、教科学習で育成した「推論する力」を総合的な学習の時間において地域課題の探究に生かす全体構想を示し、実社会と結びついた学びを推進した。3Dプリンターの活用、キャリア教育の再構築等を行い、探究的な学習の在り方にについて見直しを図った。	算数科・数学科 生活科・理科 総合的な学習の時間 特別支援教育	<パネルディスカッション> 広島大学大学院 教授 松浦 拓也	249	3	0	252
				今後に 向けて	「推論する力」を発揮する場を他教科や学校生活中にも広げ、児童生徒が主体的に活用できるようになることが求められる。また、マスターーブリックを児童生徒とも共有し、互いに目指す姿の共有を図りながら、研究成果をさらに高めることを期待する。						
西条 小学校	11月21日 (金)	令和6・7年度 東広島市 教育推進指定校	共創力をはぐくむ ～多彩な学びのデザインを通して～	成果	「共創力」（自ら学び、共に学び、「学び」を価値付ける力）の育成を目指し、「教師の役割を「情報伝達者」から「学びのデザイナー」へ転換した。多様な選択や自己決定の機会、質の高い対話場面を効果的に位置付けた「多彩な学び」を実現し、児童が主体的に学びを調整し、互いに考え方をぶつけ合う姿が見られた。さらに、学習方法や学習内容を振り返る活動を重視するとともに、学校行事、家庭学習等、学校教育活動全般を通じた「多彩な学び」をデザインし、児童の「共創力」の育成を推進した。	国語科 社会科 算数科 理科 生活科 音楽科 特別支援教育	<シンポジウム> 上智大学 教授 奈須 正裕 東京学芸大学 講師 佐野 亮子 広島大学大学院 准教授 深谷 達史	193	89	45	327
				今後に 向けて	「学びのデザイナー」として、社会の変化や児童の多様な姿に敏感であり続けながら、急速に変化する社会課題を踏まえ、育成すべき資質・能力を見定めることが求められる。その上で、探究的な学びや協働的な課題解決を効果的に取り入れた授業をデザインし続けることを期待する。						
向陽 中学校	11月25日 (火)	令和6・7年度 東広島市 教育推進指定校	論理的思考力・判断力・表現力を高める学習指導の工夫 ～対話的な活動を通して、お互いに学び合い高め合う～	成果	論理的思考力の育成を目的に、全教科で三角ロジックや対話型論証を取り入れた授業改善を進めた。生徒が根拠をもって考えを整理し、筋道立てで伝え合いながら対話を通じて学びを深める姿が見られた。また、思考のプロセスを可視化することで主体的な学びが促され、表現力への課題意識をもって取り組む姿勢が定着しつつある。日常的な話し合いにおいても、論理的に考え、説得力ある意見を形成する姿勢に結びついたのは、研究の目的と方法を明確にし、学校全体で協働する体制を築いた成果である。	各教科	<講演> 広島大学大学院 教授 木下 博義	109	0	0	109
				今後に 向けて	これまでの研究成果を、教科等を越えた教育活動全体に広げるとともに、中学校区全体で共有・発展せざることが求められる。小中接続教育の充実を図り、論理的思考力や表現力の向上に向けた取組を地域に積極的に発信し、中学校区のリーダー校として牽引することを期待する。						

合計 1,102 103 46 1,251